

授業科目名	基礎看護学臨地実習 I		担当教員	◎鶴沢淳子、休波茂子、有家 香、 中川泰弥、新川実穂	科目ナンバリング NF156
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：臨地実習45時間		

【授業概要】

医療機関の主な部門を見学することにより全体像について把握する。看護者のケアに参加することで看護の役割、患者(利用者)の生活環境、看護におけるコミュニケーションの重要性について学ぶ。また、学生が自ら患者(利用者)とのコミュニケーションを行うことで、看護者－患者関係について考える機会とする。

【達成目標】

1. 医療施設の主な部門の全体像について理解することができる。
2. 看護の役割を理解することができる。
3. 患者の生活環境について理解することができる。
4. 患者とのコミュニケーションを通して、その相互作用について気づくことができる。

【履修条件】

看護学概論を修得していること。

【授業計画】

実習1日目	オリエンテーション(実習病院の概要)、カンファレンス
実習2日～4日目	病院実習、カンファレンス
実習5日目	面接評価、実習の振り返り

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 志自岐康子他編集(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論，メディカ出版。
2. 松木光子編集(2011)：看護学概論第5版，NOUVELLE HIROKAWA。
3. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版
4. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版
5. 深井喜代子編集(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，メジカルフレンド社。
6. 深井喜代子編集(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ，メジカルフレンド社。
7. 深井喜代子他 編(2017)：新・基礎看護生理学テキスト，南江堂
8. 深井喜代子他 編(2019)：改訂第2版基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践，南江堂

【評価方法・評価基準】

実習目標による評価(50%)、医療施設について学びのレポート(20%)、課題レポート(20%)、カンファレンス参加度(10%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：看護学概論、基礎看護技術論、日常生活援助論での学びを振り返りまとめる。事前課題としての主要な部門の機能と役割について記述する。

事後学習：1日の実習終了後に各自体験したことを振り返り記述する。

実習での学びを振り返り課題レポートとして記述する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については2年前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【備考】

基礎看護学臨地実習Ⅰでの学びは2年前期の基礎看護学に行われる看護展開論Ⅰ・Ⅱ、治療援助論に関連する。またこの実習の単位を修得していない場合、基礎看護学臨地実習Ⅱの履修はできない。看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。